

平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立城北小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

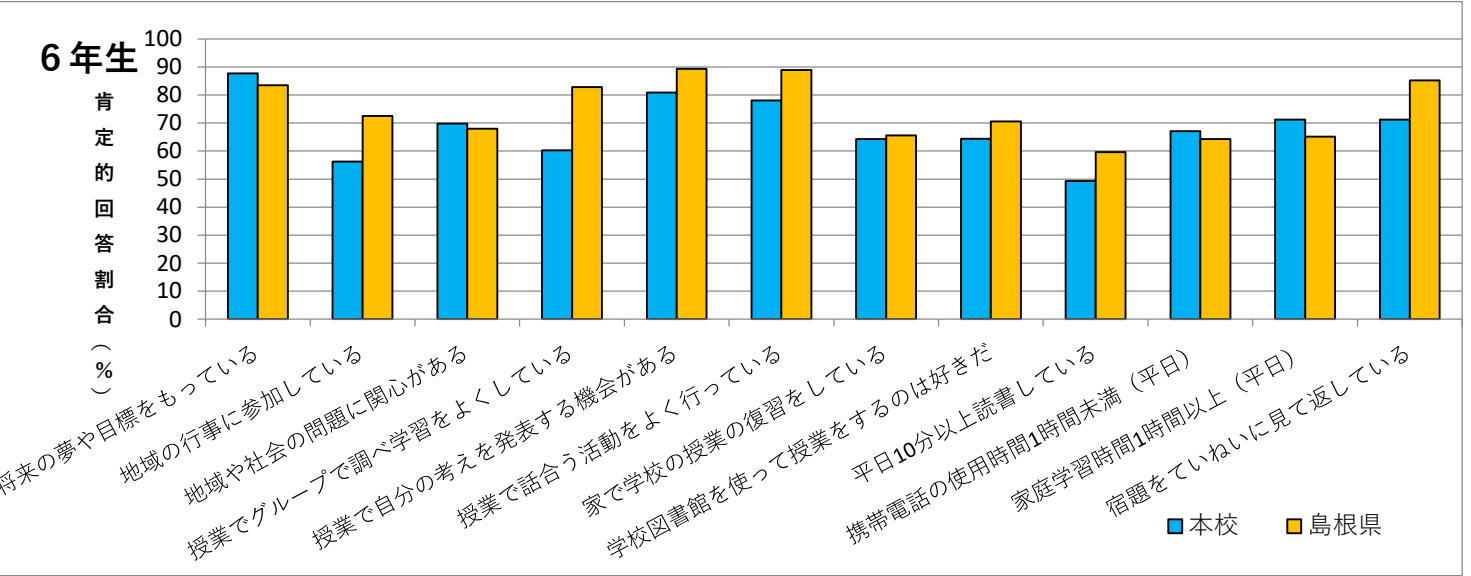
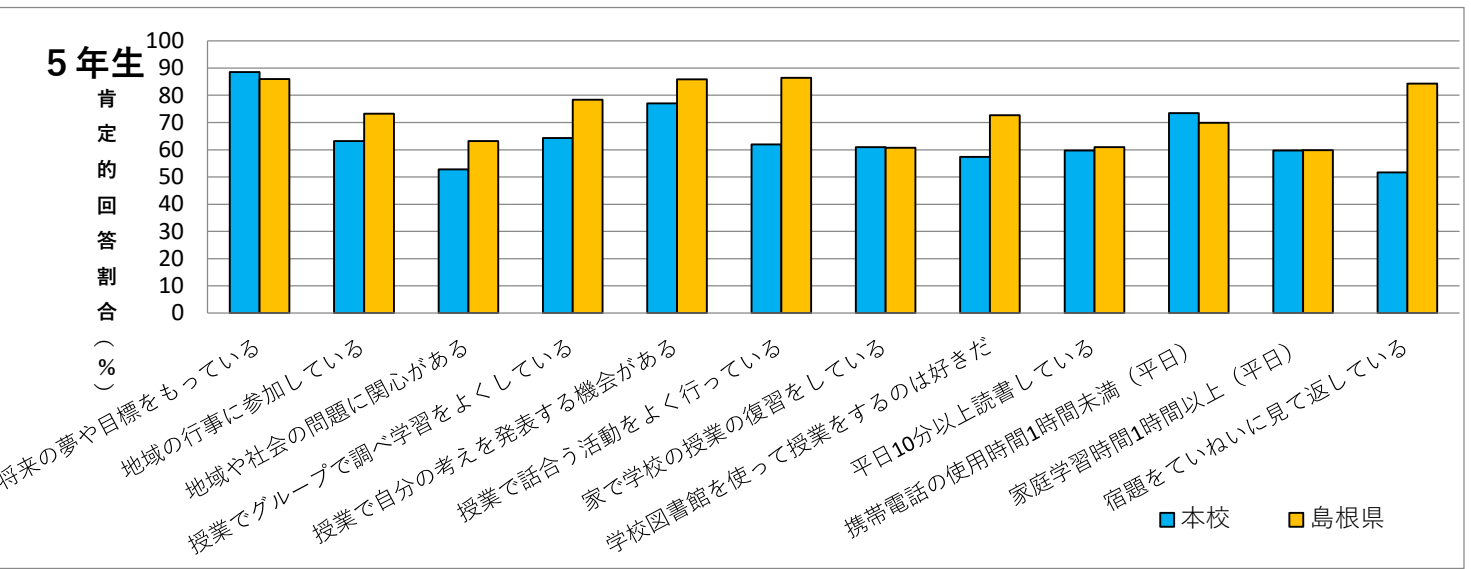
成果と課題(○:成果、●:課題)			対策
5年	国語	○漢字やローマ字などの言語面は平均を上回っている。 ○文章を読み取る力も平均を上回っている。 ●条件に沿って文章を書くことが苦手である。	・条件を与えて作文を書く練習をする。具体的には「○字以内」「○○という言葉を使って」「読み取ったことをもとに」など。
	算数	○図形の知識理解については県平均を上回っている。 ●押し並べて島根県平均を下回っている。基本的な計算能力の習熟度が低い。 ●無回答率が高く、問題が難しいと感じると取り組むことをあきらめてしまう。	・小数の割り算や異分母の足し算・引き算などの基本的な計算が身につくように繰り返し取り組む。 ・習熟度別にクラス分けをし、問題の意味や解き方について丁寧に指導する。
6年	国語	○全体の平均正答率は、市や県を上回った。 ○漢字やローマ字などの正答率が非常に高い。 ●話す・聞くの領域は、2ポイント県平均を下回っている。	・話し手の意見の根拠や意図に注目しながら、自分の考えと比べて聞くという視点を常に意識できるようにし、友達の意見を聞いたり話し合い活動に参加したりするようにしていく。
	算数	○全体、各領域、問題形式の平均正答率は、共に市や県の平均を上回った。 ●全般的に理解はできているが、四則の入り混じった計算などの基礎的な問題で誤りが見られる。	・解法のための話し合い活動や考え方の記述を意図的に行い、筋道を立てて考える力をつける。 ・休憩時間や放課後等の個別指導を行ったり、毎月の計算会の実施や自学による家庭学習の充実を図ったりすることで、より基礎学力の定着を図る。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

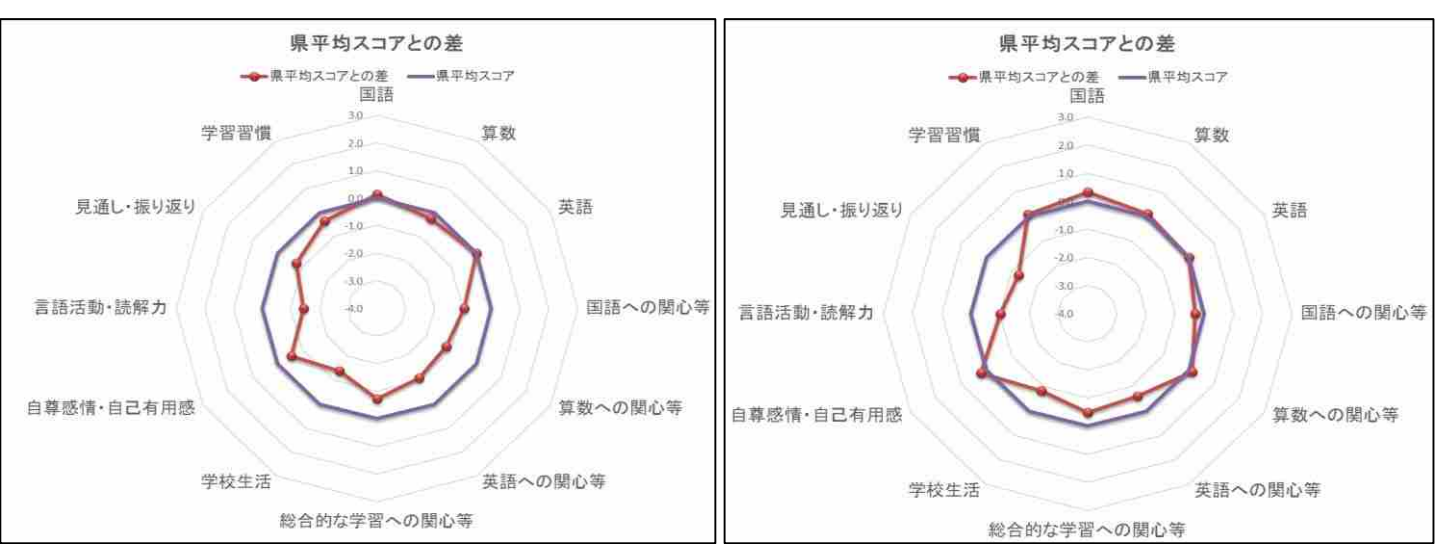
成果と課題(○:成果、●:課題)			対策
5年	授業改善に関わる事項	○授業のめあてを意識することは県平均を下回ってはいるが、その差は小さい。(88.5ポイント) ○算数のノートの取り方について頑張っていると感じている。 ●学習規律が守られていないと感じている児童が多い。 ●勉強が好きだと感じる項目が県平均を大きく下回っている。	・子どもたちが学習に向かうルール作りを行い、みんなで守ることができるように取り組んでいる。 ・授業のはじめにその時間の内容を知らせ、見通しをもって取り組むことができるようにする。 ・教材研究に努め、少人数指導などの学習形態にも工夫をする。
	家庭学習に関わる事項	○家で復習をしている値は県平均並みである。(60.9ポイント) ○携帯電話の使用時間が1時間未満の児童が多く、校内のメディアコントロールウィークの取り組みの成果が感じられる。 ●宿題を教員に丁寧にってもらっていないと感じている児童が多い。 ●効果的な家庭学習の取り組み方について指導してもらっていないと感じている。	・宿題の取り組みについて、良い取り組みに対しては評価の仕方を工夫する。 ・工夫された自学ノートの例をコピーして掲示したり、学級通信を通して紹介したりする。
6年	授業改善に関わる事項	●グループで調べたり、話し合ったりする活動が県平均を下回っている。	・グループでの話し合い活動や調べ学習を行い、自分の意見を伝えたり話し合ったりする活動を積極的に取り入れる。
	家庭学習に関わる事項	○家庭学習は1時間以上取り組んでおり、県平均を上回っている。 ●平日の読書量が少なく、県平均を下回っている。	・今後も音読カードや自学メニューカードを利用し、家庭学習に積極的に取り組ませる。その際、図書館と連携し、学年のおすすめの本等の読書メニューも組み入れていく。

平成31年2月15日

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果



(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	65	49
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数

5年生 87 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	73	61
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数

6年生 73 人